



チャレンジ事業の公開審査



活発な市民活動（三本木地域のすいせん植え隊）



デスティネーションキャンペーンで弾みがつく観光



食の魅力をPR（新米まつり）



災害に備えて住民参加で防災訓練

大崎市4年目の検証

大崎市総合計画 の実現に向けた 取り組み

現在の経営状況

- ①観光立市へ
- ②おおさきブランド確立へ
- ③新産業、新製品の創出へ
- ④循環型社会へ

宝の都(くに)・大崎 ずっとおおさき・いつかはおおさき

3つの重点プロジェクト

大崎 20万都市への挑戦
おおさき産業革命の推進 -1万人雇用機会の創出-
大崎市流地域自治組織の確立

6つの施策の大綱に基づく具体的な取り組み

合併時の状況

- ①多様な地域、産業、文化の並立
- ②大崎市の地位の確立
- ③発展の基盤づくり
- ④行政改革
- ⑤大幅な収支改善

市民が主役協働のまちづくり

- まちづくり協議会、地域づくり委員会
- パートナーシップ会議
- チャレンジ事業交付金
- 市民活動サポートセンター
- 市民課窓口の日曜半日開庁

活力あふれる産業のまちづくり

- 観光立市を目指し誘客事業を展開
- 鳴子峡周辺整備
- 新たな食の発掘(大崎御膳・隠れメニュー)
- 地産地消の推進
- 産業推進機構の設立
- 自動車関連産業の推進
- 環境保全米の支援

安全安心で交流が盛んなまちづくり

- 三本木スマートICを開設
- 道路網の整備
- 古川駅バリアフリー化
- 自主防災組織の整備

地域で支え合い健康で元気なまちづくり

- 幼保一元化施設(2施設新設)
- 放課後児童保育の充実(8カ所増設)
- 就学前まで乳幼児医療費助成を拡大
- 子育て支援の充実保育(保育ママ制度創設)
- 4病院1診療所のネットワーク化
- 市民病院本院および岩出山分院建設へ

地域の個性をいかし豊かな心を育むまちづくり

- 小中学校の耐震修繕・大規模改造
- 大崎南学校給食センター
- 教員補助員と外国語指導助手
- 宮城大学との連携協定
- フランク永井展示室
- スコレハウス改修
- 新図書館建設へ

自然と共生し環境に配慮したまちづくり

- ラムサール条約登録湿地でのワイズユースの取り組みの拡大
- バイオマスタウン構想の実現化

検証1

市民が主役

協働のまちづくり

「まちはみんなで作る」を合言葉に

市民はまちづくりの主役として、行政は地方政府として、大崎市流地域自治組織を確立し、新たなまちづくりがスタートしました。

各地域では、話し合いの場が多く開かれ、地域の宝の再発見や課題の共通理解のもとに、自らの将来像を描き、解決に向けた事業を展開するなど、住民の暮らしを支える基盤が形成されています。さらに、地域間交流や情報の共有も活発に行われ、住民同士の間が醸成されています。

自らの地域の課題を考え、解決するための事業を提案し、審査の上で交付金が交付されるチャレンジ事業は、これまで二十二年の事業が採択されて実践されています。

また、住民と行政が一緒になって考えるパートナーシップ会議は「公民館および出張所のあり方」「保育所等の民営化」「ふるさとプラザのあり方」などの課題について試行的に運用され、今後の協働のまちづくりの大きな力になるものと期待されています。

検証2

安全安心で

交流が盛んなまちづくり

都市の快適さを追求して

日常生活における安全性を高め、安心して暮らせるまちづくり、暮らしの利便性の向上のための都市基盤、交通基盤の整備を進めてきました。

近い将来発生が予想される宮城県沖地震に備えて、自主防災組織の組織力強化が進められ、組織率は九十七・二%まで上がってきました。

交通基盤整備の面では、三本木スマートインターチェンジの供用開始、三本木地域坂本から古川地域新田までの西回り環状道路の整備、中心部へのアクセス幹線道として、都市計画道路並柳福浦線の完成、李塚飯川線が暫定開通し、利便性が向上しています。

JR古川駅では、エレベーターの設置とエスカレーターが増設され、バリアフリー化が図られました。

自動車関連企業の進出に伴う移住者のための相談窓口(移住支援センター)や、田舎暮らし志向の受け入れにつながるメールサービスなどの情報発信を積極的に行ったことで、全体の人口はまだ減少傾向にありますが、移住者は増加しています。

政策課 ☎2129